

2019年5月17日実施
SDGsに関する政府・市民社会意見交換会 議事録

日時：2019年5月17日（金） 事前会合：10:00～11:00、本会合：11:00～12:00、事後会合：12:30～13:30

場所：外務省

外務省 地球規模課題審議官組織 地球規模課題総括課 出席者一覧（4名）

- ・甲木浩太郎 課長
- ・野村俊介 課長補佐
- ・吉橋明日香 経済協力専門員
- ・照屋友紀 経済協力専門員

市民社会側出席者一覧（22名）

| 氏名 | 所属・役職 | 氏名 | 所属・役職 |
|------|---|----------|---|
| 足立治郎 | 「環境・持続社会」研究センター（JACES） 事務局長 | キュー・ジュリヤ | 武蔵野美術大学 教授 |
| 稲場雅紀 | SDGs 市民社会ネットワーク 業務執行理事 | 城倉純子 | 一般社団法人大学女性協会 理事 |
| 遠藤理紗 | 「環境・持続社会」研究センター（JACES） 事務局次長 | 城谷尚子 | 公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン アドボカシーチームリーダー |
| 大沼照美 | セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン アドボカシー・オフィサー | 鷲見八重子 | 一般社団法人大学女性協会 会長 |
| 神谷麻美 | ジョイセフ アドボカシー・オフィサー | 中野 理 | 日本労働者協同組合連合会 理事・海外連携推進部長 |
| 川口真実 | セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン アドボカシー・オフィサー | 中村絵乃 | 開発教育協会 事務局長 |
| 小池宏隆 | 地球環境戦略研究機関 研究員（JYPS メンバー） | 西山美希 | 特定非営利活動法人シェア国際保健協力市民の会 法人連携・普及啓発担当 |
| 齊藤千佳 | マラリアノーモアジャパン シニアプログラムオフィサー | 福永夏輝 | 一般社団法人 the Organic（代表：小原壮太郎氏の代理） |
| 澤柳孝浩 | プラン・インターナショナル・ジャパン アドボカシー・オフィサー | 堀内葵 | 特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター アドボカシー・コーディネーター |
| 柴田哲子 | ワールド・ビジョン・ジャパン アドボカシー・シニア・アドバイザー | 前川龍太 | SDGs 市民社会ネットワーク コーディネーター |
| 山口和美 | 持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム（Japan Youth Platform for Sustainability）（JYPS） 参画部オフィサー、TICAD コーディネーター | | |

開会挨拶（発言者：甲木課長）

今日は、市民社会の声を聴くことが目的なので、外務省からの発言は最小限にしたいと考えている。遠慮なく意見を言って欲しい。

各自自己紹介

議題 1 : 6 月 SDGs 推進本部会議の概要、指針改訂に向けたスケジュール、円卓会議の活用等 (発言者 : 甲木課長)

・6月にG20サミット、8月にT I C A D 7、9月にSDGsサミットがあり、それらの機会にSDGsの日本モデルを内外に発信していく。
・SDGsに関して今後の山場は、年内に予定される『SDGs実施指針』の改定。パブリックコメントも実施する予定。SDGs推進円卓会議のプロセスを通じて、有識者のご意見も頂く方向であり、広く様々な声を取り入れながら進めていきたい。

議題 2 : 7月HLPF、9月HLPF首脳会議の概要および日本政府の取り組み (発言 : 甲木課長)

質問(柴田) : 『SDGs実施指針』に関して、パブリックコメント以外にFace to Faceの会合を検討しているのか? また、パブリックコメントのスケジュールについても知りたい。

回答(甲木課長) : パブリックコメントは実施するが、それだけではもったいないので、SDGs推進円卓会議なども活用して市民社会の声を直接聴けるようにしていきたい。市民社会とはシステムティックに声を聴く仕組みができていますので、スケジュールを調整して、意見聴取を続けていきたい。

質問(遠藤) : SDGsの進捗管理が大切だが、日本政府の統計データの信頼性への疑問も出ている。どのようにデータを集め、管理し、進捗をはかっていくのか?

回答(甲木課長) : SDGsのグローバル指標は、データの収集の難しさなどを基準として、3種類に分類される。日本政府にとって集め難いものもあるが、現在関係省庁と作業をしているところである。なお、合意された指標以外にESG投資、特に社会的インパクト投資などをどのように評価していくのかということも議論になっている。SDGsの進捗管理及び達成度評価に関して、現在、様々な場で議論が活発になされているので、これらの議論もフォローしていきたい。

質問(澤柳) : 『SDGs実施指針』ではSDGsのゴールを8つの課題として独自に分類しているが、SDGsの17ゴールに沿った整理の仕方をしないのか? イギリスなどでは、ゴールに則って整理をしている。

回答(甲木課長) : この点も『SDGs実施指針』の改定作業の中で議論していく。

質問(稲場) : 過去4年間でSDGsにまつわるプレイヤーが多様化、重層化している。日本政府内や経済界、アカデミア内での取りまとめというのはどのように行う予定か?

回答(甲木課長) : 円卓会議で広い声を吸い上げるとともに、例えば経済のメジャー・ステイクホルダーとは個別に調整を行っている。また、科学技術イノベーションなどに関して、内閣府や科学技術振興機構(JST)などを通じて幅広い関係者と緊密に連携している。SDGsがここまで勢いを持った今、広く関係者の声を吸い上げるようにしていきたい。

質問(稲場) : 市民社会としても、SDGs推進円卓会議などを活用しつつも、日本に数多くある他のステイクホルダーともSDGsに関して意見交換をしていきたいと考えている。いわば「SDGs国民会議」ともいうような、より広い場を政府が設定する予定はあるか?

回答（甲木課長）：積極的にやりたいと思う一方、政府からの押しつけになってもよくないので、政府がどこまで SDGs の国民的議論に介入すべきか検討しなければならないと思っている。

質問（足立）：SDGs を進める中で、「ソサエティ 5.0」は一つの重要な論点だが、正のインパクトを拡大するとともに、「ソサエティ 5.0」推進にあたり懸念される雇用への負のインパクトなども考えなければならない。

回答（甲木課長）：今回、G20 の準備を進める中で、G7 との違いを痛感している。G7 はドナー国の集まりで、G20 はそうではない。そのため、G20 内でのイノベーションなどの議論の進め方は慎重に進めてきた。

質問（森岡）：国際会議での安倍首相による連滞税への言及はあるのか？

回答（甲木課長）：SDGs 達成のために、社会的インパクト投資やブレンデッド・ファイナンスなどを始め、様々な革新的資金調達方法が議論されている。総理による言及があるかわからないが連滞税を含む革新的資金調達の議論は G20 でも取り上げてきている。また、9月の国連総会の際にも開発資金ハイレベル対話の機会に革新的資金調達方法に関する議論がなされる予定。

質問（小池）：7月または9月の会合の際にサイドイベントなどはするのか？

回答（甲木課長）7月のHLPFに関して、閣僚セッションの時にレセプションやG20の成果を発信するためのサイドイベントを政府主催したいと考えている。

質問（稲場）：事前に7月のHLPFに参加する市民社会メンバーと政府関係者と調整したい。

回答（甲木課長）：是非していきたい。

質問（稲場）：9月のSDGs首脳サミットで発表する映像や総理のスピーチに市民社会の取り組みを含めてもらえるのか？2017ではそのようにできなかった。

回答（甲木課長）：どういう機会があるかまだはっきりしていないが、検討したい。

質問（堀内）：次のVNRはいつか？市民社会の声を聴く場を設けてもらえるのか？

回答（甲木課長）：今のところ再度VNRに参加する予定はない。9月のSDGs首脳サミットはいわば中間報告の場と考えている。『SDGs実施指針』改定後に新たな発信をしていくことは考えていきたい。

議題3：市民社会からの「アクションプラン2019」の評価とHLPF、指針改訂に向けた要望と討議

全体に関して（発言者：稲場）

- ・国内貧困への言及が少ない。
- ・バックカスティングの視点が足りない。その点から『SDGs実施指針』を見直して欲しい。
- ・SDGs推進円卓会議をもっと活用すべきだと考えている。
- ・SDGs推進円卓会議に協同組合やコミュニティの代表者が入っていないので、マルチ・ステークホルダーの枠組みを強化して欲しい。

優先課題1. 全ての人の人権が尊重される、誰一人取り残さない社会

①若者（発言者：小池）

- ・学生ローンの問題への取り組み強化して欲しい。
- ・高等教育のみならず、地域間における教育アクセス格差への取り組みを強化して欲しい。

・『アクションプラン 2019』の中で掲げられている賃金引上げの支援というのはトリッキーだと思うが、どのように取り組むのか？もっと根本的な取り組みが必要で、政策面でのアプローチが必要。

優先課題 1. 全ての人の人権が尊重される、誰一人取り残さない社会：

②教育・障害・人権（発言者：柴田）

- ・教育分野に関しては、『アクションプラン 2019』の方向性と市民社会の方向性はほぼ一致している。しかし、障害者など最も脆弱な人々への取り組みという点では弱い。誰一人取り残さないという点を踏まえて『SDGs 実施指針』を改定して欲しい。
- ・外国人の子どもへの支援、いじめへの取り組みが弱い。
- ・『障害者基本法』との整合性が弱い。
- ・外国人の人権、技能実習制度等への取り組みへの言及が弱い。

優先課題 2：ジェンダー・性的指向・性自認などに関わる平等が実現された社会：（発言者：神谷）

- ・女性活躍が中心に据えられていて、活躍できる人のための SDGs 施策となっている。シングルマザーやテクノロジーにアクセスできない女性、外国人の女性への支援が弱い。
- ・親の貧困は子どもの貧困に直結するので、その点への言及も強化して欲しい。
- ・国際協力分野での言及は多いが、国内分野への言及は弱い。
- ・同一価値労働という形で言及して欲しい。
- ・セクハラをはじめとする、女性の暴力根絶についてもっと言及して欲しい。
- ・LGBTQI への言及が全くないので、言及して欲しい。

優先課題 3. 全ての世代のすべての人の健康と福利の実現：（発言者：西山）

- ・外国人移住者への保健医療サービスへのアクセスに関して、しっかりと言及して欲しい。実際、技能実習生は国際協力の一環と位置付けられているので。
- ・UHC や国際機関への資金拠出への言及は評価するが、日本政府として、それらの資金と他の支援（例：二国間援助）がどう連携させていくのかという点に言及して欲しい。
- ・栄養の言及はされているが、ビジネスの面が強くなっている。また、新しいものを外から持ってくるという前提で施策が展開されているが、地元の資源を活かし、農業・環境など他の分野との連携を通して、地域での持続可能な栄養に関する取り組みが大切なのでその視点が重要である。

優先課題 4. 持続可能な経済、社会、地域の実現：（発言者：堀内）

- ・地域共生圏や SDGs 未来都市など様々な取り組みとの調整、調和を図って欲しい。
- ・農業などの地域の生業への取り組みを強化して欲しい。

優先課題 5. 災害の防止と被害の軽減、生活に必要なインフラの確保：（発言者：堀内）

- ・仙台防災枠組が策定されてから 5 年が経つが、改めてこの枠組みに基づいて防災・減災取り組んで欲しい。この点への言及が欲しい。
- ・気候変動への適応策への言及も欲しい。

優先課題 6. 省エネ強化、再生可能エネルギーへの転換、気候変動への取組、循環型社会の実現（発言者：遠藤）

- ・長期戦略への議論が進んでいるのは評価する。
- ・プラスチックの海洋汚染への問題への取り組みも評価する。
- ・気候変動への適応策に関し、脆弱層や貧困層に特化した取組も言及して欲しい。
- ・CO2 以外の温室効果ガスへの対策も更に強化して欲しい。

優先課題7. 生物多様性、森林・海洋等の環境の保全（発言者：遠藤）

・『愛知ターゲット』の成果や課題を整理しかつそれらに言及し、さらにSDGsに資するポスト・愛知ターゲットへの取り組みも強化して欲しい。

優先課題8. 平和、参加型民主主義、透明性と責任、司法アクセス

栄養：（発言者：川口）

- ・GPeVACへの言及を評価する。
- ・2020年に栄養サミットが開催される予定などで、この点にも言及して欲しい。
- ・調印が難しいのは承知しているが、『学校保護宣言』への言及もして欲しい。

法の支配：（発言者：川口）

- ・市民社会スペースの確保に言及して欲しい。
- ・マネーロンダリングに関して、C20のPolicy Packで掲げた3つ論点にも言及して欲しい。

優先課題9. 全ての人のパートナーシップによるSDGsの実現（発言者：稲場）

・連帯税を『SDGs実施指針』や次の『アクションプラン』で言及して欲しい。
・格差の問題が大きくなっているが、国際協力の中で各国の再分配制度強化への支援を促進して欲しい。

返答（甲木課長）

誰一人取り残さないという点を強調すべきということがポイントだったと感じている。また、人間の安全保障という概念は国際協力だけではなく、国内の課題でも相対的貧困への対応等で活かせると考えている。この点は、市民社会と思いは一緒。環境政策に関しても、政府と市民社会の方向性は同じだと考えている。ジェンダーなどの課題に関しては、まだまだできることはあろうかと考えている。

議題4：SDGsに関わる日本の国際貢献等に関する市民社会の要望と討議

保健分野（発言者：稲場）

グローバルファンドへ及びGAVIワクチンアライアンスなど、保健関係の多国間資金メカニズムへの増額をお願いしたい。

栄養分野（発言者：大沼）

『国別開発協力事業展開計画』での栄養への言及は非常に少ない。
オリンピック・パラリンピックと同じ時期に栄養サミットを開催して欲しい。（2012年のロンドンでのオリンピック・パラリンピックでは、飢餓サミットが開かれた。）
世論調査でも国民は保健・食糧分野への支援を最も重視すべきだと考えている。

教育分野（発言者：城谷）

- ・教育分野へのODAについて、バイ・マルチともに、経済規模に見合った拠出を期待している。
- ・危機状況下の子どもへの教育支援を強化するため、“Education Cannot Wait”に拠出して欲しい。

返答（発言者：甲木課長）

・今後検討していく予定。
・栄養サミットにはしっかりと取り組んでいきたい。栄養は、教育・保健等様々なセクターに関わっているため、良いテーマだと考えている。

・G20 プロセスの中で教育に重点を置いた人的資本投資に関して議論を進めてきたので、GPE のほか ECW への取り組みもしっかり考えていきたい。

その他

質問（稲場）：SDGs 推進本部はいつ開催するのか？市民社会としてもリアクションペーパーも用意する必要があるので、日程を知りたい。

回答（甲木課長）：6月の方向で現在調整中。なお、昨年、骨太の方針とSDGs 未来都市の発表を同日に行っている。

質問（城倉）：女性活躍の施策から取り残される女性が多い、そのため、国内の女性にまつわる課題への言及もしっかりとして欲しい。女性の社会進出の増加に伴って、セクシャル・ハラスメントの件数も増えている。市民社会は女性支援のための活動を進めているが、Burn Out する前に政府に対応して欲しい。そのためには、『国際人権規約』の「選択議定書」への批准、『インスタンブール条約』の批准、『刑法』の改定が必要だと考えている。法の支配の強化、ジェンダー課題への取り組みの強化をお願いしたい。

回答（甲木課長）：多様な関係者を含めて議論を進めて行きたい。なお、近年では、各国政府代表団が若者を代表団の一員とすることが主流化してきており、日本政府としても国際会議等で政府代表団に若者を含められることにつき今後様々検討していくこととなろう。

以上